

9月の技術対策（水稻）

平成17年9月1日

JAきたそらち・JA北いぶき
空知北部地区農業改良普及センター
雨竜西部地区農業改良普及センター

1 生育状況

表1 8月15日現在の生育状況（空知北部・雨竜西部普及センター定期調査ほ場）

品種名	年次	稈長 (cm)	穂長 (cm)	m ² 穂数 (本/m ²)	出 穂			穂揃 日数	成熟期
					始	期	揃		
きらら397	17年	66	17.2	689	7/22	7/26	7/30	8	
	平年	-	-	631	7/25	7/28	8/1	7	9/14
ほしのゆめ	17年	70	16.1	695	7/22	7/25	7/29	7	
	平年	-	-	596	7/23	7/25	7/28	5	9/9

〔空知北部〕

品種名	年次	稈長 (cm)	穂長 (cm)	m ² 穂数 (本/m ²)	出 穂			穂揃 日数	成熟期
					始	期	揃		
きらら397	17年	63.7	17.0	697	7/25	7/29	8/2	8	
	平年	65.9	16.5	581	7/25	7/29	8/2	8	9/16
ほしのゆめ	17年	67.6	15.1	738	7/23	7/27	8/1	9	
	平年	68.7	15.7	627	7/23	7/28	8/2	10	9/12

〔雨竜西部〕

- 出穂期は、空知北部地区内で2日程度、雨竜西部地区内で平年並～1日程度早まりました。
- 稈長はやや短い傾向にあり、穂長はきらら397は平年よりやや長く、ほしのゆめでは、やや短い傾向です。穂数は平年より多くなっています。
- 出穂期後の積算気温から予測される成熟期は表2のとおりです。出穂揃以降も高温で経過しているため登熟は進み、9月上旬に成熟期に達するほ場も多いと予想されます。

2 刈り取り適期の判定

成熟期間近になったら、必ず玄米による刈り取り適期の判定を行いましょう。
〔判定手順は図1参照〕。

- 整粒歩合は1日当たり2～3%程度ずつ高くなります。

〔刈り取り適期の算出方法〕

$$\{ \text{目標整粒歩合(90\%以上)} - \text{サンプルの整粒歩合} \} \div 2.5 + \text{サンプル刈り取り日}$$

- ほ場毎に刈り取り適期を判定し、適期内に収穫が終えられるように計画を立てておきましょう。
- サビ米・茶米の多いほ場、倒伏したほ場は、別刈りとして下さい。

表2 出穂期後の積算気温による成熟期予測（アメダスデータで算出）

出 穂 期		7/23	7/25	7/27	7/29	7/31	8/ 2
出穂期後40日間の 積算気温	深川	862	857	851	849	837	822
	沼田	860	855	850	847	835	820
出穂期後の積算気温 950 到達日	深川	9/ 6	9/ 9	9/11	9/14	9/17	9/20
	沼田	9/ 6	9/ 9	9/11	9/14	9/17	9/20
出穂期後の積算気温 1000 到達日	深川	9/ 9	9/12	9/14	9/17	9/20	9/23
	沼田	9/ 9	9/12	9/15	9/17	9/20	9/24
成 熟 期 予 測	深川	9/ 6	9/ 9	9/11	9/14	9/17	9/20
		～	～	～	～	～	～
	9/ 9	9/12	9/14	9/17	9/20	9/23	
	沼田	9/ 6	9/ 9	9/11	9/14	9/17	9/20
		～	～	～	～	～	～
	9/ 9	9/12	9/15	9/17	9/20	9/24	

8月23日以降は平年値で計算。

成熟期に達するまでの積算気温は950～1000が目安。

出穂の早い高温年は950に達する前に成熟期となる場合もある。

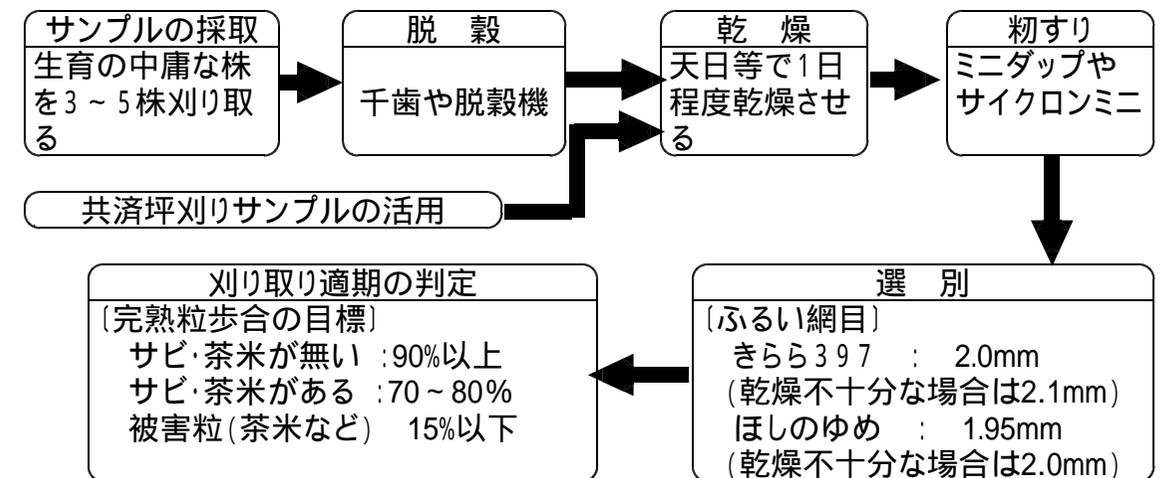


図1 玄米による刈り取り適期判定の手順

3 乾燥・調製

- 急激な高温乾燥を行うと胴割れ米の発生が多くなるため、毎時乾減率0.8%以下で乾燥しましょう。また、仕上げ水分の均一化と乾燥処理能力向上のためにも二段乾燥方式(水分17～18%で一時貯留)を実施しましょう。
- 高温時に収穫するなどして貯留温度が高い場合、品質の劣化を起こしやすいので、速やかに乾燥出来るよう収穫体制を整えておきましょう。
- 肌ずれ防止のため、初摺りは穀温が十分下がってから(外気温と同じ)行って下さい。
- 調製ふるい目は、「きらら397」は2.0mm、「ほしのゆめ」および「ななつぼし」では1.95mmを基本としますが、必ず下見検査を受けてから調製を行って下さい。